

【樹木の部屋】

ゲッケイジュ（クスノキ科ゲッケイジュ属 *Laurus nobilis*）

和名：月桂樹 **別名**：ローレル **英名**：Bay laurel

クスノキ目 常緑高木 **原産地**：地中海沿岸

花言葉：栄光、勝利、栄誉 **花の色**：黄



← 写真-1 ゲッケイジュ

撮影日：2015年07月11日

撮影場所：サンヴィンサン

（北イタリア）にて

撮影者：M さん

↓ 写真-2 ゲッケイジュの生垣

撮影日：2015年07月11日

撮影場所：サンヴィンサン

（北イタリア）にて

撮影者：M さん



北イタリアで宿泊したサンヴィンサンのホテルで見かけました。ゲッケイジュの生垣です。珍しいので一枚。珍しいと思っていたのですが、調べてみると、刈り込んで綺麗な形に仕立てることができるので、庭木や垣根として広く普及しているそうです。が、少なくとも、小生の身近で、生垣として植栽されているのを目にした記憶はありません。丈夫な反面、病害虫(カイガラムシやすず病)が付きやすいのが短所です。

葉にはシネオールと呼ばれる芳香成分が含まれ、葉を乾燥させたものをローリエ（フランス語：laurier）、ローレル（英語：laurel）、ベイリーフ（英語：bay leaf）などと呼ばれ、香辛料として広く流通しています。カレーやシチュー用も兼ねて苗木を栽培している人も結構いるのではないのでしょうか？比較的、身近な存在のようで

す。

現在、スポーツの勝者には、月桂冠が与えられていますが、かつてはオリーブの冠が与えられていたと言う話。調べてみると、そのようでした。

古代ギリシャの英雄ヘラクレスがオリンピアの庭に植えたオリーブの枝を、オリンピックの勝者に与えたことが由来で、2004 年のアテネオリンピックでも、優勝者には金メダルとともにオリーブ冠が与えられたそうです。

一方、ゲッケイジュは文化芸術の神・アポロンの聖樹とされていて、その枝で作った月桂冠は詩人や文人の頭上を飾るもので、ノーベル賞受賞者が Nobel Laureates (ノーベルのローリエを冠された者) と呼ばれるのも、そういう意味だからだそうです。スポーツではオリーブ冠、文化では月桂冠というわけです。2012 年の大阪国際マラソンでは、それまで優勝者に授与していた月桂冠をオリーブ冠に変えたとのこと。オリーブが平和のシンボルになったのも、古代ギリシャで、オリンピック開催中だけは休戦にしたからだそうです。

< ちょっと一言 >

- * ゲッケイジュの葉には強いアルコール吸収抑制活性が認められるそうです。その活性本体は、 α -メチレン- γ -ブチロラクトン構造を有するコスチュノリド(costunolide)などのサポニンであるセスキテルペン類で、その作用機序として、胃液分泌の亢進や胃排出能抑制作用などが関与しているそうです。